

GP 農法の農業

GP 農法の農業について。
従来の慣行農業とは基本的に違います。
GP 農法では、土壌微生物の力を借りています。
それに対し、慣行農業の野菜作りでは微生物のことは関係ありません。

どうして微生物が大事なのか・・・

人間に例えて考えてみます。
私たち人間は無菌状態では生きられません。
腸内微生物、皮膚には常在細菌、とたくさんの微生物の力を借りています。
私たちは微生物と共生しているのです。
よって、微生物が少ない、微生物のバランスが崩れる、等のことが起こると免疫力の低下を招き体調を崩してしまうのです。

現在の医学は検査機能が優れており、身体の中の部分に問題があるのか解りません。そして、その部分に投薬などの対処をして、その部分を治し回復させようとしています。

樹木、植物、草花等々自然界はすべての生きものが微生物と共存共生しています。
土壌の1平方メートルあたり、何十兆もの嫌気菌の微生物・好気菌の微生物が存在しバランスを取り成り立っています。
そのバランスが取れた土壌で樹木、植物、草花等が生きているのです。

もう一度言いますが、慣行農業の野菜作りでは微生物のことは関係ありません。
先ず、野菜の種を病気が出ないように消毒します。
畑は石灰で中和し、野菜の種類に応じて種と一緒に化学肥料を散布します。
野菜に病気や害虫がついた場合は野菜を収穫するまで、何度でも消毒をして対処します。

GP 農法での野菜作りは基本『土壌作り』です。
土が元気になることを先ず考えます。
自然の中で草が生い茂る微生物いっぱいのバランスの取れた土作りです。

微生物でいっぱいの畑に種をまき、土壌に米ぬかをまきます。
その上から発酵した草エキスを散布します。
これが微生物たちのエサであり、エネルギーの元になります。

もし、病気や害虫が発生した場合は、草エキスを希釈して散布します。
GP 農法で作った野菜は枯れるのです。
それは抗酸化作用が高いからです。